

## 第 80 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ :樹林環境の順応的管理—

12月の研修会では皆伐更新区域での更新阻害植物の駆除・除去と、ホトケドジョウの生息環境再生のための樹木の除伐を行いました。



早朝には氷点下まで気温が下がった12月の谷戸山公園現場研修会。  
湿生生態園の池は、一面氷に覆われていました。



はじめに講師から、今回の研修内容や公園管理方針などの説明があります。  
この他に、保育園でビオトープを造成した事例の紹介もありました。  
このように実際のビオトープの仕事の話を聞くことも、勉強になります。



午前は、去年の2月に皆伐をした樹林地の管理作業です。  
萌芽更新により、森林の若返りを期待します。



先月に引き続き、裸地などの先駆種で生長の早いアカメガシワ、カラスザンショウ、イヌザンショウ、ハリエンジュなどを除伐しました。

このまま放置すれば、この樹林地はこれらの成長の早い種で覆われ、  
地表や新たな芽などに光が届かなくなってしまい、期待していた森林の更新が進まないのです。



こちらはアカメガシワ。葉が互生で葉柄が赤いのが特徴ですが、  
この時期は葉を落としているものもあります。  
でも、この特徴的な冬芽で見分けられますね。  
よく似ているクサギは、葉が対生です。



イヌザンショウは、トゲが互生。よく似ているサンショウは、対生です。



先月まで多く見られたハリエンジュ。研修当日は一見目立たなくなっていました。  
しかし、根は残っているので、今後も繁茂しないよう注意が必要です。



作業の合間に、気になった生きものを図鑑で調べます。  
右はハラビロカマキリの卵塊です。



秋のような高い空と暖かな陽射しに、畔で日向ぼっこするアキアカネも見られました。



午後は恒例の気になる環境に関する記事の発表からです。  
それぞれ環境に関する記事を持ち寄り、気になった理由や自分の考えなどを発表しました。



その後北谷戸へ移動し、ホトケドジョウのビオトープ再生のための間伐作業を行いました。





緩やかな流れに暮らすホトケドジョウですが、北谷戸には産卵環境となる水草や溜まりが不足しています。

人々が里山を放棄したことで失われたこれらのホトケドジョウの生息環境を復元するため、水路を覆うヒサカキやシラカシなどの常緑樹を間伐し、水路に水草が生えやすい環境を整えます。



伐採後は、まとめやすいように枝を伐り落とします。



伐った枝葉はまとめます。上に重い幹を載せるなどして、隙間がないようにすると、腐食しやすいようです。

また、既に腐食している枝を間に入れるのも、腐食が進みやすいそうです。

これで、今回の研修会は終了です。1月も引き続き、皆伐更新における樹林環境の順応的管理を行う予定です。皆伐から、もうすぐ一年を迎えます。はじめての方も、そうでない方も、皆伐後の樹林の経過を実際に見て、体感できるいい機会ですので、ぜひご参加ください。